

稲作情報 No.11

〔7月17日水稻調査結果、大豆培土〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA経済連、主要農作物振興協会）

[http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku.html](http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html)

- ・コシヒカリは幼穂形成期を過ぎ穂肥の施用時期を迎えています。草丈は短いが茎数は平年を上回っています。
- ・特に直播コシヒカリの茎数は過剰となっています。生育診断を行って倒伏軽減剤の散布を検討しましょう。（倒伏軽減対策の判断基準は7ページ参照）
- ・ハナエチゼンは出穂期を過ぎています。圃場を乾かさず間断通水に努め、適期にカメムシ防除を実施しましょう。

水稻

【農業試験場水稻気象対策試験のコシヒカリの生育】(7月17日) 直播コシヒカリは倒伏軽減剤を散布予定



圃場の外観
適期田植えコシヒカリ(5/20植え)



稲株の拡大(茎数平均25.0本/株)



圃場の外観



稲株の拡大(茎数615本/m²、7.4本/株)
直播コシヒカリ(5/7播種)

水稻気象対策試験は、気象条件が水稻の生育に与えた影響を比較するため、毎年同一の栽培管理を行っています。

- ・適期田植えコシヒカリの草丈はかなり伸びたが平年よりは短い。茎数は平年より多い。幼穂形成期は7月10日前後に迎え、平年より2～3日程度早い。
- ・直播コシヒカリの茎数は平年より多く、倒伏軽減剤を散布すべき圃場が多いと見込まれる。幼穂形成期は7月13日前後に迎えている。
- ・ハナエチゼンは7月16日を中心に出穂期を迎えている。平年より2～4日程度早く昨年より2日程度遅い。

毎週の生育調査に基づく発信は今回で終了です。次回は8月8日に米の登熟状況等について発信予定です。（発信日時等が変更になる場合もありますので予め御了解ください。）

コシヒカリの穂肥施用基準(2～3ページ)、カメムシ防除(5ページ)、コシヒカリの倒伏軽減対策(7ページ)、大豆の排水対策(11ページ)

メールマガジンの登録はこちらを参照 http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html

【今後の栽培管理】

品種	今後の管理
<p>適期田植え コシヒカリ 【幼穂形成期過ぎる】</p> <p>直播コシヒカリ 【幼穂形成期迎える】</p>	<p>【倒伏軽減対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に直播が茎数過剰で「草丈×茎数×葉色」値が基準を上回り倒伏しやすい稲体になっている。（6ページ参照） ・生育状況を確認して穂肥の施用（3ページ参照）や倒伏軽減対策の実施を検討する。（7ページ参照） <p>【穂肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分施体系の施用基準は下表のとおり。 ・幼穂10mmを確認して穂肥を施用する。（次ページの穂肥目安板「穂肥くん」参照。） ・2回目は1回目の7日後に2回目穂肥を窒素成分で2kg/10a施肥する。 ・地力が低いなど葉色を維持するのが難しい所では、2回目の1週間後に3回目の穂肥を施用する。 <p>【水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 ・入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。
<p>移植ハナエチゼン 【出穂期迎える】</p> <p>移植イクヒカリ</p> <p>移植あきさかり 【幼穂形成期迎える】</p>	<p>【幼穂形成期以降の水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 ・入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。 ・出穂期を迎えたハナエチゼンは特に圃場が乾かないように注意する。 <p>【病虫害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシ類の防除準備を行い、適期に作業を行う。大麦跡でそばを作付予定の水田に隣接する場合は特に注意して適期防除に努める。出穂期を迎えたハナエチゼンの圃場にカメムシ類侵入を助長する作業は行わない。 ・イクヒカリは紋枯病、ニカメイチュウに、あきさかりは紋枯病、白葉枯病に注意する。 ・あきさかりは穂肥の時期を迎えている。下表を参考に施用する。



切った溝を活用した間断通水

穂肥の目安と施肥基準

品種	穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)		
	幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)
コシヒカリ	10mm	18日	3.5	2	2	(1)
イクヒカリ	2mm	23日	4.0~4.3	2	2	(1)
あきさかり	2mm	23日	4.0	2	2	(1)

(3回目)は低地力、乾田のみ

【コシヒカリを倒さずに高品質と収量を確保する穂肥目安板 「穂肥くん」】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

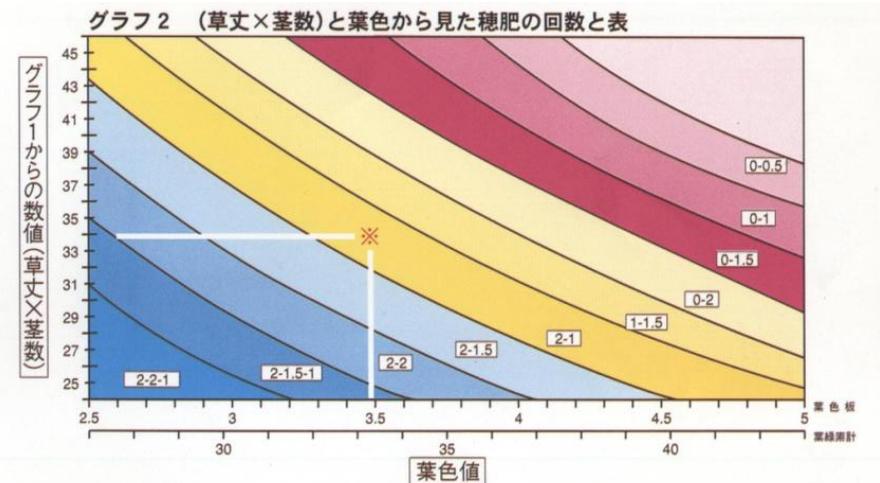
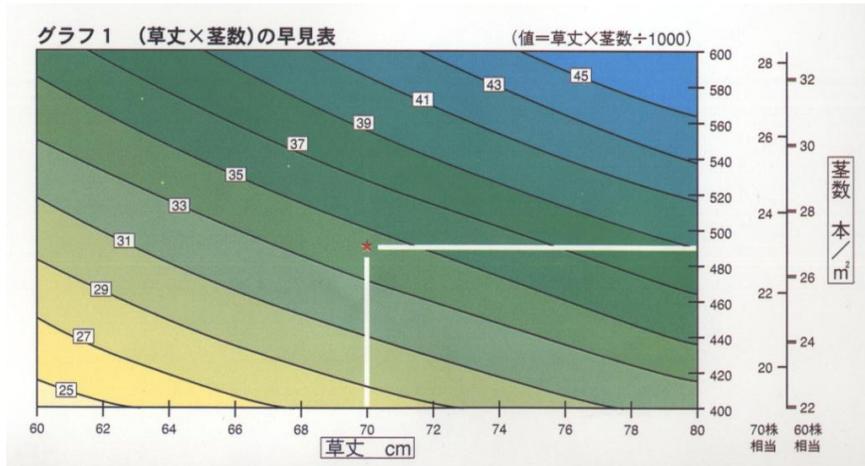
・草丈(cm)、茎数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。

2. 早見表グラフ1で草丈×茎数の数値を求める

・グラフ1上で草丈と茎数の数値の交差点(★)から草丈×茎数÷1000の値を求めます。
(グラフ1には草丈70cm、茎数490本/m²を例示しています。)

3. 早見表グラフ2でグラフ1と葉色から穂肥の回数と量の目安を求める

・グラフ2上でグラフ1の値(★)と葉色の数値の交差点(※)により穂肥の回数と量の目安を求めます。
(グラフ2にはグラフ1からの値34、葉色3.5を例示しています。)



穂肥管理判定表

葉緑素計 草丈×茎数×葉色値 (×10,000)	葉色板 草丈×茎数×葉色値 (×1,000)	施肥量管理区分(Nkg/10a)			倒伏の 可能性
		1回	2回	3回	
~ 7.7	~ 7.7	2.0	2.0	1.0	小
7.7 ~ 8.8	7.7 ~ 8.9	2.0	1.5	1.0	小
8.8 ~ 9.8	8.9 ~ 10.2	2.0	2.0	—	小
9.8 ~ 10.9	10.2 ~ 11.5	2.0	1.5	—	小
10.9 ~ 12.1	11.5 ~ 12.8	2.0	1.0	—	中
12.1 ~ 13.2	12.8 ~ 14.2	1.0	1.5	—	中
13.2 ~ 14.6	14.2 ~ 15.8	—	2.0	—	中
14.6 ~ 16.3	15.8 ~ 17.7	—	1.5	—	大
16.3 ~ 17.8	17.7 ~ 19.6	—	1.0	—	大
17.8 ~ 19.0	19.6 ~ 20.9	—	0.5	—	大

※上位第3帯が43cm以上の場合は倒伏軽減剤の利用を考える

- ・地元の農林総合事務所やJAと相談して地域の栽培環境等を勘案して判断する。
- ・幼穂形成期頃の「草丈(cm)×茎数(本/m²)×葉色(葉色板)」値16万以上、直播で12万以上)場合は倒伏軽減対策を実施する。

【病害虫等の発生状況と対策】

病害虫	発生状況と対策																																																																																																																																																																					
<p>葉いもち</p>	<p>【発生状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BLASTAM（ブラスタム）によるいもち病の感染好適条件出現状況（●感染好適条件日 ○準好適条件日） ・平成26年度農作物病害虫発生予察予報第5号では、平年より少なく前年より多い。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防粒剤の苗箱施薬や本田散布を行っていないもの、常発地、適期田植えや直播栽培、生育が旺盛で葉色が濃く葉が垂れているもの、などで特に注意して観察する。 ・圃場を見回って、発病を見つけたら治療効果のある薬剤を散布し蔓延を防ぐ。 <table border="1" data-bbox="1529 219 1970 468"> <thead> <tr> <th></th> <th>7/03</th> <th>7/04</th> <th>7/05</th> <th>7/06</th> <th>7/07</th> <th>7/08</th> <th>7/09</th> <th>7/10</th> <th>7/11</th> <th>7/12</th> <th>7/13</th> <th>7/14</th> <th>7/15</th> <th>7/16</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三国</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>春江</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>越前</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>勝山</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>大野</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>今庄</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>敦賀</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>美浜</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小浜</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		7/03	7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	三国	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	○	-	-	春江	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	越前	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	福井	-	-	-	-	●	●	○	-	-	-	-	-	-	-	勝山	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大野	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	今庄	-	-	●	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	美浜	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小浜	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7/03	7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16																																																																																																																																																								
三国	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	○	-	-																																																																																																																																																								
春江	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
越前	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
福井	-	-	-	-	●	●	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
勝山	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
大野	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
今庄	-	-	●	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-																																																																																																																																																								
美浜	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
小浜	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																								
<p>紋枯病</p>	<p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・垂直進展初期は平年並み。早生で7月第3半旬、中晩生で7月第5半旬。 ・8月上旬までに出穂する圃場では穂ばらみ期～出穂直前、8月中旬以降に出穂する圃場では7月下旬に薬剤を散布する。 ・穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。 ・紋枯病が発生した圃場では、菌核が残っており次作の伝染源となる。前年に発生があった圃場では、必ず防除を行う。 ・早生（ハナエチゼン）、短稈品種（あきさかり、イクヒカリ）では被害が大きくなりやすいので注意する。 																																																																																																																																																																					
<p>カメムシ類</p>	<p>【発生状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月1日にカメムシ多発注意報が発令された。 ・水田周辺雑草地でのすくいとり調査では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等が平年の1.5倍。 ・大麦跡のそば作付け予定地の雑草にも多い。雑草管理を徹底する。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫の本田侵入最盛期は7月5半旬で早生の糊熟初期（出穂10～14日後）にあたる。 ・粉剤・液剤の防除は穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後）と糊熟初期（出穂10～14日後）の2回行う。多発地域は3回散布を実施する。 ・詳細は、平成26年農作物病害虫発生予察注意報第2号（http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo_d/fil/tyuuihou2.pdf）参照。 																																																																																																																																																																					
<p>その他</p>	<p>【ニカメイチュウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生量は平年、前年より多い。越冬世代の発生が早かったため第1世代の発生も早くなると予想される。 ・発生量が多いところでは7月6半旬から8月1半旬に防除を行う。 ・前年発生が多かった圃場、窒素施用量が多く葉色が濃い圃場、直播等熟期が遅い圃場、イクヒカリやもち品種で注意する。 <p>【イネツトムシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2世代幼虫加害最盛期は7月5半旬、被害程度は少発、局中発、発生量は平年、前年より多いと予測されている。 <p>【イネアオムシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2世代幼虫加害初期は7月5半旬頃、被害程度は少発、局中発、平年より多く前年並みと予測されている。 ・過繁茂のものや葉色の濃いもの、山間地など風通しの悪い所で被害が大きくなるので注意が必要である。 																																																																																																																																																																					

【カメムシ防除による斑点米防止】

- ・7月1日にカメムシ多発注意報が発令されました。水田周辺雑草地でのすくいとり調査ではカメムシの発生量が平年の1.5倍。
- ・斑点米の発生が毎年多い地域では、品種ごとに本田3回散布で斑点米カメムシ防除を行いましょう。

品種別の粉剤・液剤防除時期の目安

品種	出穂期	成熟期	防除時期の目安			備考
			1回目 穂揃期	2回目 糊熟初期	3回目 収穫14～7日前	
ハナエチゼン (5月1日植)	7月16日	8月16日	7月22日	7月29日	8月6日	生育調査に 基づく予想日
コシヒカリ (5月20日植)	8月3日	9月6日	8月10日	8月20日	8月30日	平年値に基づく 目安
あきさかり (5月15日植)	8月8日	9月16日	8月15日	8月25日	9月9日	平年値に基づく 目安

上表は、ハナエチゼンは現地の生育状況に基づく予想日、コシヒカリの出穂期、成熟期は農業試験場、あきさかりの出穂期、成熟期はJA花咲ふくい坂井農場の平年値を基にした目安である。出穂期が早まればそれに合わせ防除時期も早まる。

- ・成虫の本田侵入最盛は7月5半旬(ハナエチゼンの糊熟初期)、被害程度は少発、局多発、発生量は平年、前年より多い。
- ・畦畔等の除草を終えていない所は早急に草刈りを実施する。ただし、出穂期を迎えてからはカメムシ類を水田内に追い込むので行わない。
- ・毎年、斑点米の発生が多い地域や牧草地・大麦跡雑草地などのカメムシ発生源が隣接する圃場では、必ず3回防除を実施する。
- ・農薬散布時期は、品種ごとの生育時期に合わせて実施する。コシヒカリに合わせてハナエチゼンの防除を行っても斑点米は防止できない。
- ・農薬使用に当たっては、使用方法を厳守するとともに、周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

カメムシ発生量が昨年より多い中で、昨年と同じ対応では斑点米が増えることは必然です。
3回防除など新たなカメムシ対策を地域で工夫して実施していきましょう。
猛暑の中の作業で大変ですが、良食味米生産の最後の仕上げに頑張りましょう！

【生育調査結果】

調査日：平成26年7月17日

		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり				
		農試	坂井農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井農場	現地		
		移植 5/2	移植 5/1	移植 5/1	移植 5/20	直播 5/7	移植 5/15	直播 5/8	移植 5/16	直播 5/2	移植 5/20	直播 5/5	移植 5/2	移植 5/15	移植 5/11		
草丈 (cm)	本年	調査終了			76.7	78.4	80.9	83.6	78.0	75.8	75.3	82.3	77.5	71.6	65.6		
	平年				77.5	80.5	83.2	79.8	82.7	80.5	78.1	82.9	76.9	73.1	76.3		
茎数 (本/株) (本/m ²)	本年				25.0 520	615	22.0 400	580	25.2 447	559	30.8 514	497	33.5 697	27.2 495	32.1 485		
	平年				20.2 420	567	20.5 383	516	22.8 414	495	22.0 413	435	26.3 547	25.9 492	25.4 436		
葉齢 (枚)	本年				11.6	11.7	12.2	11.2	11.7	11.3	11.4	11.4	13.0	12.1	11.5		
	平年				11.9	11.2	12.2	11.6	11.8	11.5	11.8	11.1	13.0	12.0	13.1		
葉色 (葉色 板)	本年				3.8	4.0	3.6	3.8	3.8	4.3	4.0	4.0	4.6	4.3	4.6		
	平年				3.9	4.0	4.2	3.8	4.0	4.1	4.1	3.9	4.6	4.3	4.7		
幼穂 形成期	本年				6/25	6/25	6/25	7/11	7/16	7/10	7/16	7/9	7/13	7/10	7/10	7/13	
	平年				6/28	6/28	6/28	7/13	7/16	7/10	7/16	7/12	7/15	7/12	7/15	7/10	7/10
出穂期	本年	7/16		7/16													
	平年	7/20	7/17	7/18	8/3	8/8	8/2	8/8	8/1	8/4	8/1	8/4	8/3	8/1			
草丈× 茎数× 葉色	本年				151,559	192,864	116,612	184,254	131,737	181,310	153,981	163,514					
	平年				126,945	182,574	132,219	155,643	135,829	164,090	130,867	141,011					

草丈×茎数×葉色の値から倒伏軽減剤の散布を検討する。詳細は次ページ。なお、直播コシヒカリでは基準値120,000を超えている。

【コシヒカリの倒伏軽減対策】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

- 草丈(cm)、莖数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。
- 草丈×莖数×葉色の値を算出します。(前ページの表の下段を参照。)

2. 止葉から数えて3番目の葉の長さを計測します

- 幼穂形成期の時、出てくる葉は止葉から数えて2番目の葉の場合が多い。したがって幼穂形成期において展開が完了している最も新しい葉が3番目の葉とみてよい。
- この葉の長さを計測します。

3. 基準値と比較する

- 草丈×莖数×葉色の基準値
移植コシヒカリ 160,000
直播コシヒカリ 120,000(移植より根が浅い、莖1本当たりの乾物重が小さいため倒伏しやすい)
- 第3葉の長さの基準値 45cm
- 基準値を超える場合は、倒伏程度が大きくなると予測されるので、倒伏軽減剤を使用します。

ロミカ粒剤	出穂25～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない、黒ボク土壌では効果が劣る場合がある
スマレクト粒剤	出穂15～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない
ビビフル粉剤DL	出穂10～5日前	3～4kg/10a	散布

【高温時の水不足対策】

1 漏水の有無の確認

- 高温、多照が続き、田面や稲体からの蒸発や蒸散作用が大きいため、1日1回水回りをして、畦畔や水尻部からの漏水がないよう止水確認を行う。

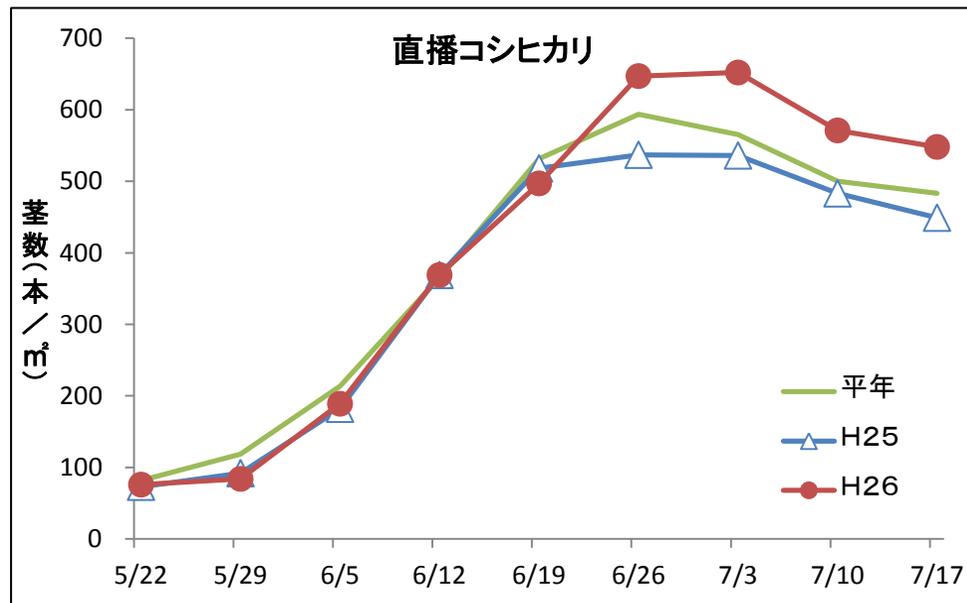
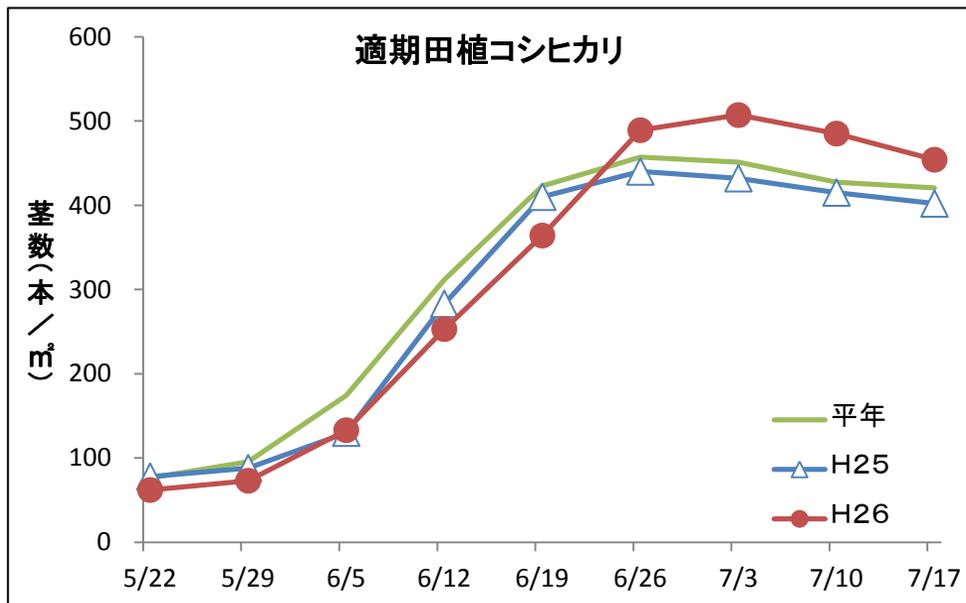
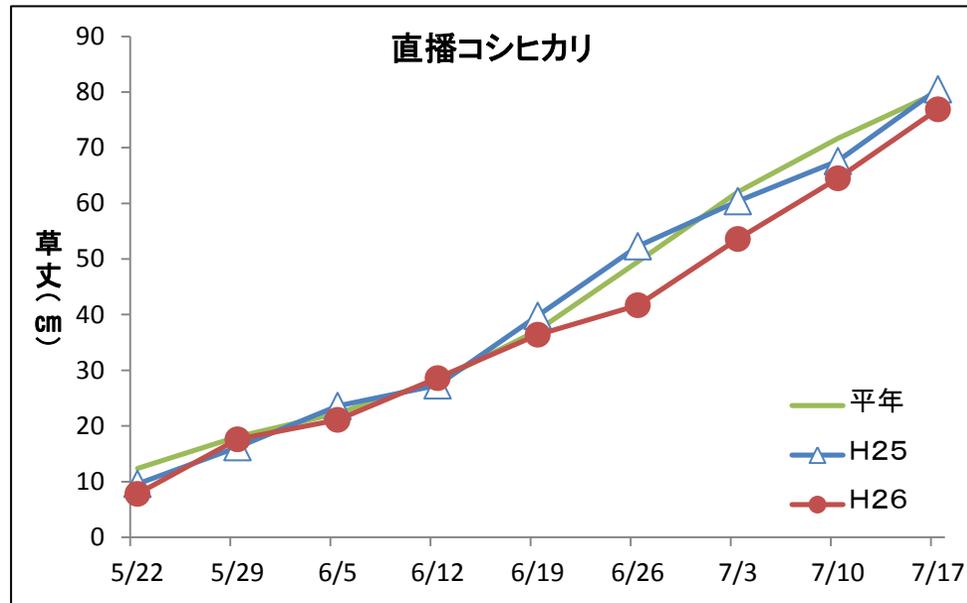
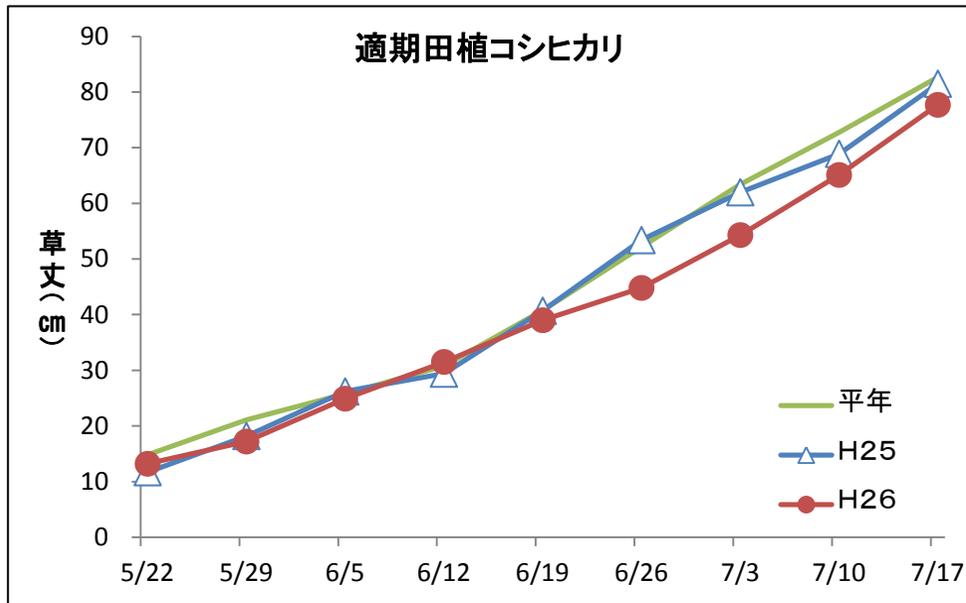
2 計画配水と水源の確保

- 水不足が懸念される場合には、地域や集落で用水系統や団地毎に入水時間を申し合わせるなど、計画的に用水の供給を行う。
- 水不足が深刻なところでは排水路からのポンプアップを行う。湛水深は極力浅水とし、節水栽培に努める。

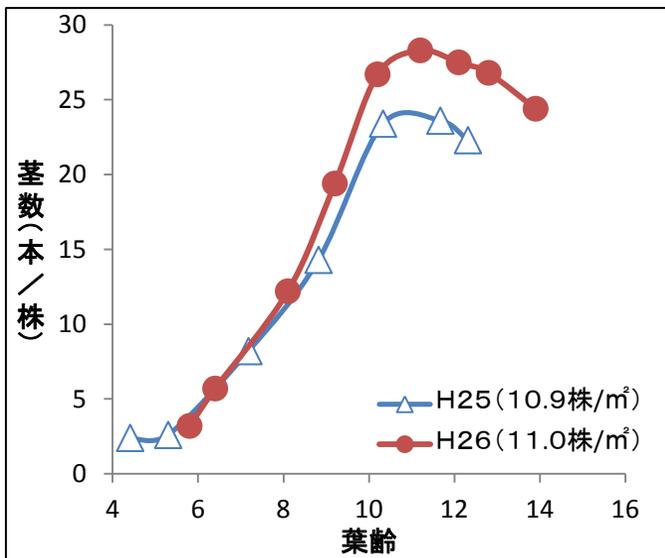
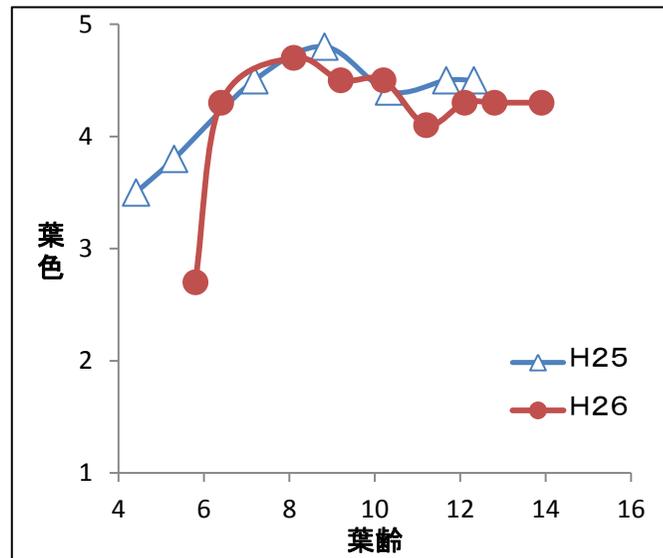
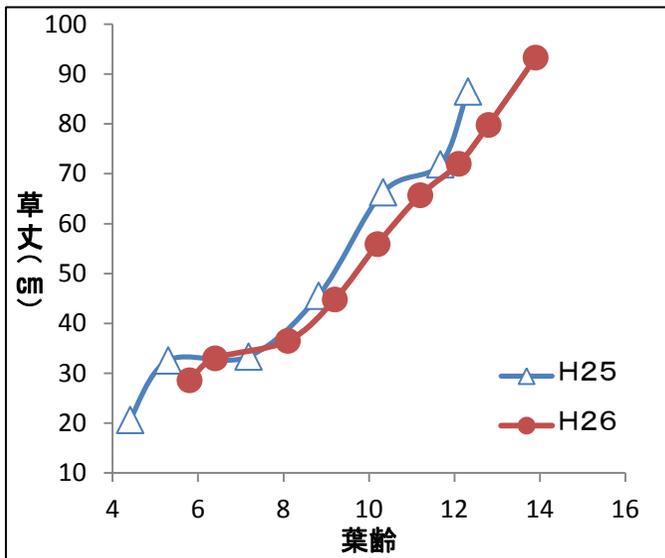
3 塩害対策

- 九頭竜川の下流域や北潟湖周辺等で、用水に塩水が混入する恐れのある地帯では常に用水の塩分濃度をチェックし、塩分濃度が700ppm以上となった場合には、集水口を水面近くに移動する。塩分の許容限界はECメーターで1.0mS/cm以下で、通常塩素イオンが濃度500ppm以下の水を使用していれば障害の発生は少ない。

【コシヒカリ生育経過】



【有機肥料コンヒカリ生育経過】 福井市の栽培事例

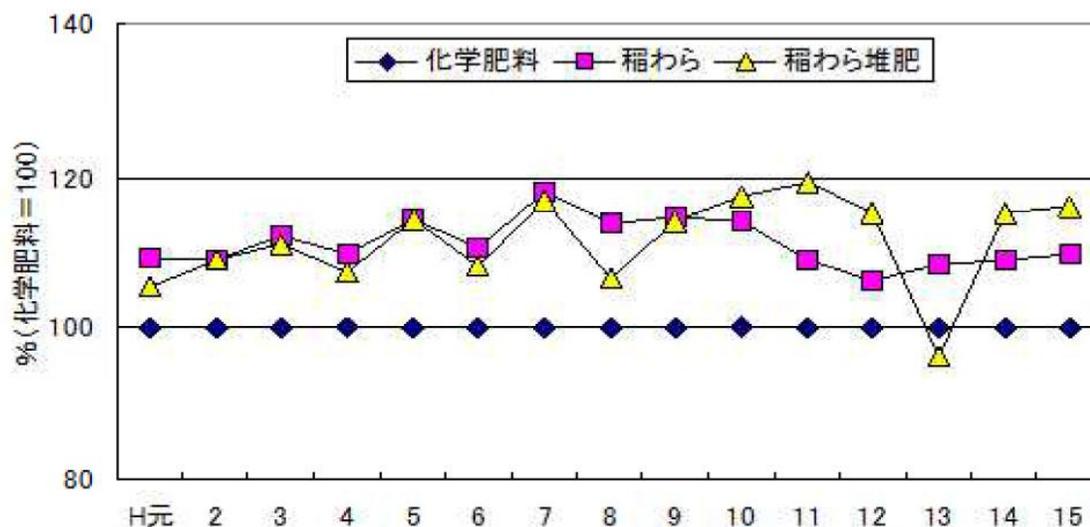


調査点: 福井市深見町
 苗: みのる式、育苗日数30日
 施肥: 米ぬかと油粕を主体としたボカシ肥料、発酵鶏ふん、シリカ21など
 この水田では除草剤を1回使用

田んぼの地力を高めよう

水分率(%)

- 自分の田んぼは肥えていないと感じることはありませんか。近年は地球温暖化の影響で高温登熟となり、肥効が不足すると白未熟の増加につながるし、追肥をすれば米のタンパク含量が増えてしまいます。
- 稲わらをすき込むことにより、田んぼの肥沃度を維持・向上させることができます。毎年すき込むことにより、稲わら堆肥並みに地力窒素を維持することができます。
- 稲わらは燃やさず秋にすき込みましょう。

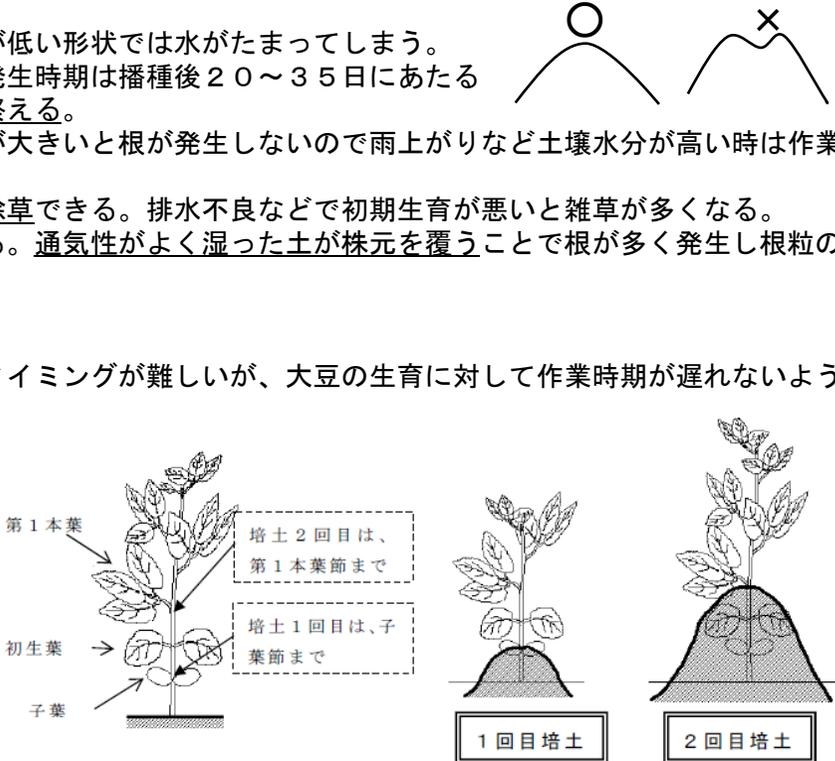


窒素の年次変動(新潟農総研)

秋の田起こしでおいしい米づくりを！

秋の田起こし運動を本年から始めます。早めに稲わらをすき込んでわらの腐熟を促進しましょう。

大豆

作業	作業の注意点									
<p>培土・中耕</p>	<p>【培土・中耕の効果】</p> <p>①畝立てをして排水性を向上する。山の形が重要で株元が低い形状では水がたまってしまう。</p> <p>②地中に入った莖から新根（不定根）が出る。この根の発生時期は播種後20～35日にあたる6月下旬から7月中旬であり、7月中旬までに培土を終える。株元を土が覆うことで根を十分発生させられる。土塊が大きいと根が発生しないので雨上がりなど土壌水分が高い時は作業しない。</p> <p>③播種後の除草剤の効果は約1か月で消えるので中耕で除草できる。排水不良などで初期生育が悪いと雑草が多くなる。</p> <p>④土が膨軟になって通気性がよくなり根粒の活性が高まる。通気性がよく湿った土が株元を覆うことで根が多く発生し根粒の発生や活性化につながる。</p> <p>⑤株元が支持されて倒伏を軽減する。</p> <p>【培土・中耕の時期と程度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回実施を基本とする。梅雨時期の作業となり実施のタイミングが難しいが、大豆の生育に対して作業時期が遅れないように留意する。 <table border="1" data-bbox="401 725 1050 929"> <thead> <tr> <th></th> <th>時期</th> <th>程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>6月下旬 本葉3～4葉期</td> <td>子葉が隠れる程度</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>7月上旬 本葉5～6葉期</td> <td>本葉第1葉節まで</td> </tr> </tbody> </table> 		時期	程度	1回目	6月下旬 本葉3～4葉期	子葉が隠れる程度	2回目	7月上旬 本葉5～6葉期	本葉第1葉節まで
	時期	程度								
1回目	6月下旬 本葉3～4葉期	子葉が隠れる程度								
2回目	7月上旬 本葉5～6葉期	本葉第1葉節まで								
<p>排水対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場周りの枕地部分で培土を行うと額縁明渠へのスムーズな排水を妨げる。 ・培土後に枕地の畝を数箇所切って排水性を高める。（右の画像参照）強雨等により停滞水がある場合は速やかに実施する。高温乾燥期の畝間かん水の実施にも役立つ。 ・排水不良や播種期が遅く生育量が小さい場合は、培土時に窒素で5kg/10a程度の追肥をする。 									

作業	作業の注意点			
除草	【生育期に使用できる除草剤】			
	使用時期		除草剤名	10a当たり使用量
	茎葉処理イネ科雑草3～5葉期	収穫60日前まで	ワンサイドP乳剤	75～100ml
	茎葉処理イネ科雑草3～8葉期	収穫30日前まで	ナブ乳剤	150～200ml(イネ科雑草3～5葉期)
				200ml(イネ科雑草6～8葉期)
	茎葉処理イネ科雑草3～10葉期	収穫30日前まで	ポルトフロアブル	200～300ml
	茎葉処理 (イネ科を除く、雑草生育初期～6葉期)	収穫45日前まで 大豆2葉期～開花前まで	大豆バサグラン液剤	100～150ml
	雑草茎葉および土壌処理 (雑草草丈15cm以下)	収穫30日前まで 大豆3葉期以降	ロロックス水和剤	100～200g
	畝間処理(雑草茎葉処理)	収穫28日前まで	バスタ液剤	300～500ml
	畝間処理 (雑草茎葉処理、雑草の草丈30cm以下)	収穫3日前まで	プリグロックスL	600～1000ml
<ul style="list-style-type: none"> 大豆バサグラン液剤は、あやこがねに薬害が強く出ることがあるため使用を避ける。 株間処理剤(雑草茎葉および土壌散布)として、ロロックス水和剤が使用可能。 狭畦密植無培土栽培は大豆が条間を早く覆って抑草するのがねらいだが、排水不良等により大豆の初期生育が不足すると雑草が多発するので、除草剤を適切に使用する。 除草剤の使用にあたっては、使用基準(使用時期、使用量、成分ごとの使用回数、散布方法、水管理方法等)を必ず守る。 				

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

①ふくいアグリネット・トップ → 農業技術情報 → 稲作情報システム

②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択

NO	地名名	品種	栽培方法	地域区分
4	高山一級産	ハナエチゼン	移植	高丹中
7	あわのこ伊豆	ハナエチゼン	移植	坂井平
45	坂井農機一ノ木	ハナエチゼン	移植	坂井平
54	坂井農機二ノ木(産期)	コヒナリ	移植	坂井平
56	福井一級産	ハナエチゼン	移植	高丹平
110	坂井二ノ木(産期)	コヒナリ	直播	坂井平
112	あわのこ重産(産期)	コヒナリ	直播	坂井平
58	坂井農機一産産	あきさかり	直播	坂井平
113	坂井農機一産産	コヒナリ	直播	坂井平
70	福井二ノ木(産期)	コヒナリ	移植	高丹平
71	福井二ノ木(産期)	コヒナリ	移植	高丹平
72	あまのこ(産期)	コヒナリ	移植	高丹平
73	津島二級産(産期)	コヒナリ	移植	高丹平
74	三郷二級産(産期)	コヒナリ	移植	坂井平
75	丸岡二ノ木(産期)	コヒナリ	移植	坂井平
85	丸岡二ノ木	あきさかり	移植	高丹平
116	丸岡一級産	ハナエチゼン	移植	坂井平

③生育状況、収量、品質のグラフを表示

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

【天気予報】

7月18日8時発表

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

日付	18 金	19 土	20 日	21 月	22 火	23 水	24 木
福井県	曇一時雨 ☁️🌧️	曇のち雨 ☁️🌧️	曇一時雨 ☁️🌧️	曇 ☁️	曇時々晴 ☁️🌞	曇時々晴 ☁️🌞	曇 ☁️
降水確率(%)	~/30/50/40	30/20/50/50	60	40	30	30	40
信頼度	/	/	B	B	A	B	C
福井	最高(°C) 30	31	29 (27~31)	30 (28~32)	32 (29~35)	32 (29~35)	31 (28~34)
最低(°C)	/	22	22 (21~23)	22 (20~23)	22 (21~23)	23 (21~24)	24 (22~25)

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス